

---

## 2. 街全体博物館収蔵品としての「からくり人形芝居」復元

桐生からくり人形研究会  
(群馬県桐生市)

---

### I. 活動の背景と目的

二十年来、桐生市に残る機織機や民具、郷土玩具などを後世に残そうという活動がある。郷土資料の保存のために博物館を創ろうという市民レベルの運動は、蔵に眠る博物的遺産を掘り起こし、世に出すという草の根運動として続いている。

明治時代、桐生天満宮で見世物興行された「からくり人形芝居」は昭和36年までに、6回の興行があったとされている。先日、昭和3年より使用されたと思われる「からくり人形」31体が蔵などから見つかった。

それらの人形は天満宮や各町内の催しでかつて使われたもので、芝居の演題で分けると、5つになる。「忠臣蔵・赤穂浪士討入」「曾我兄弟・夜討」「助六由縁江戸櫻」「巖流島」「羽衣」である。

人々の記憶から忘れ去られていた幻の「からくり人形」を秋のファッションウィークに展示したところ、内外からの大きな反響を呼んだ。しかし、かつて舞台の上で演技していた人形が動かなかったため、それらの再生を望む声が大きかった。また、仕掛けを解明し、動きを取り戻した「からくり人形」の舞台を再現すれば、マンネリ化が囁かれる祭りやイベントにも活気が戻り、まちづくりのきっかけになるのではないかという期待感もあった。

さらに「からくり人形」に興味を持つ世代は幅広く、ボランティアグループも多岐に渡る可能性が高く、普段は個別に活動するグループ間の交流が生まれることも予想された。

### II. 活動の内容

平成10年

5月19日 第1回からくり人形研究会

桐生クラブ2号室 出席者9名

- ・会則案を了承し、今後賛助会員募集をすることとし、山鹿英助氏が会長として選出された。
- ・研究会として事業計画を決め、毎月第2月曜日に例会を開催することとする。



からくり人形

6月8日 第2回からくり人形研究会

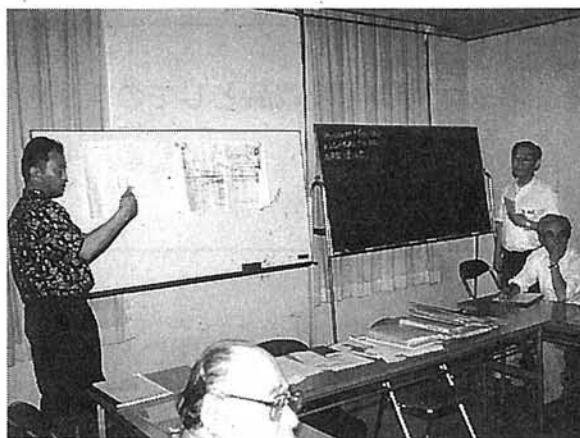
桐生クラブ1号室 出席者13名

- ・曾我兄弟の人形を検分し、人形のレプリカを作ることを提案。
- ・「桐生からくり人形」は舞台の仕掛けが中心でありその解明が重要である。既存人形の修理保存と平行して舞台を作らなければならない。
- ・舞台は、古い図面により、間口4,500センチ、奥行き2,700センチ組立式とす

る。

- ・助六由縁江戸櫻、三浦屋のセットの「のれん」を複製。

- 7月13日 第3回からくり人形研究会  
桐生市東公民館 出席者11名
- ・11月開催のファッションウィークに、からくり人形の展示を求められてるので参加する。
  - ・人形の構造を知るため、レントゲン撮影を試みる。



月例定例会

- 8月10日 第4回からくり人形研究会桐生市東公民館 出席者12名
- ・建築家谷村氏の舞台の考案に基づきセット場面は3場とし、図面作成。
  - ・当時の町内の頭、川崎氏を招聘して、昭和36年当時の舞台からくり説明会を開催予定。

- 8月15日 昭和36年舞台からくり説明会。桐生市郷土資料展示ホール 出席者12名

- ・昭和27年及び昭和36年当時は、時計技師と自転車屋さんが製作にあたり、モーターで回していた。(当時の8ミリ映像をビデオ化)
- ・足下部分は、木製の溝に沿ってチェーンで結ばれていた。
- ・動作はクラッチで作動し、総て自動化していた。
- ・時代の最新技術が使われていたわけで、それを時代に置き換えて考えれば、桐生の技術の一つであるパチンコの機械技術を使ったらどうかという提案が出される。
- ・活動をNHKに情報提供する。

- 9月12日 第5回からくり人形研究会 桐生市西公民館 出席者20名
- ・設計図に基づき、パチンコのベルトを使った試作品をつくり、検討。
  - ・部門別担当を決める。舞台図面作成谷村氏、人形製作佐藤氏、着物図案柘植氏。衣装製作金子さん、作動システム須藤の各氏。

- 10月12日 第6回からくり人形研究会 桐生市東公民館 出席者18名
- ・第3回ファッションウィーク中の、からくり人形の準備。展示。
  - ・人形のレプリカ作成を田畑恵美子氏に製作依頼する。
  - ・舞台駆動部分の試作を谷村、須藤氏で製作。

- 10月31日～11月3日 第3回ファッションウィークに有隣館で展示。
- ・舞台設営を研究会で行う。パンフレットは商工会議所が2000部作成。
  - ・会場内でビデオにより、昭和36年当時のからくり芝居フィルムを上映した。
  - ・組立式舞台装置が完成。会場で手動により「動くからくり人形」を実演。

- ・住宅・都市整備公団中川忠整備課長、ハウジングアンドコミュニティ財団プログラムオフィサー吉野裕之氏が視察に来訪。
- ・大阪商工会議所の紹介で大和針（株）の倉中勝次夫妻が来訪された後日、からくりの仕掛けの材料にと、自社製品を寄贈された。
- ・からくり人形を個々に写真撮影、採寸して記録保存。



ファッションウィーク会場



会場内での展示

- 11月9日 第7回からくり人形研究会 桐生市東公民館 出席者18名
- ・第3回ファッションウィークの反省とハウジングアンドコミュニティ財団の視察報告
  - ・曾我兄弟第2場と、第3場の動きを解明。
  - ・駆動方式はベルト式かチェーン式かで討論し、パワーにまさるチェーン式を採用することとし製作を検討。
- 12月21日 第8回臨時からくり人形研究会 桐生クラブ 参加者22名
- ・からくり人形レントゲン撮影フィルムを検討。
  - ・青木めぐみ会員がインターネットのホームページを開設。全国にからくり情報を発信できる体制をとる。  
(URL)<http://www.kiryu.co.jp/karakuri/>  
(メール)[karakuri@kiryu.co.jp](mailto:karakuri@kiryu.co.jp)
  - ・NHKの要請により「小さな旅」収録に協力。桐生クラブで衣装製作場面、仕掛け部分の研究状況などやビデオを見ながらの研究会場面の録画取りをした。
- 12月25日～26日 有鄰館でのNHK撮影に協力し、平成11年1月23日全国放送される。

平成11年

2月10日 第9回からくり人形研究会 桐生市西公民館 出席者20名

報告事項

- ・NHK より、地域放送文化賞受賞
- ・桐生ファッション大賞に研究会活動が、ノミネートされる。
- ・NHK 名取アナウンサーが地方の講演で、当研究会活動を紹介し、見学問い合わせがある。

3月8日 第10回からくり人形研究会 桐生市東公民館 出席者15名

#### 報告事項

- ・1月23に放送された「小さな旅」は視聴率17%の高視聴率だった。
- ・桐生郷土資料館展示ホールの「節句の人形」の際、曾我兄弟の人形と、制作中のレプリカ人形を展示する。



NHKによる撮影風景

### Ⅲ. 活動の効果と今後の課題

今まで人々の記憶の中に眠っていただけの「からくり人形」31体がすべて、藤井氏により

写真撮影、及び採寸されたことにより一応記録保存された。また、着物も版画等の資料に照らし合わせ、当時の「千鳥柄」図案が間に合わせであることも推測された。

当時の写真や8ミリ映像に残る舞台は、解体、組立が繰り返されたせいか、重く大きすぎて保存が難しかったためか、まったく残っていなかった。桐生からくり人形は「茶運び人形」など人形自体が動き廻るものと違い、舞台に設置された駆動部分にしたがって動きを与えられる。つまり、舞台に取り付けられたクラッチや仕掛けで手足を動かしたり、首を回転させたりするのである。従って記録がほとんど残っていない舞台の仕掛け解明が重要になってくる。

からくりの基本となる舞台の製作に当たっては、写真等の資料から大きさを割り出し、今後、コンパクトに収納できるように組立式とし、移動が楽なように分離、軽量化を図った。8ミリ映像を基に駆動部分も再生し、NHKの撮影の際は一応の完成を見て、来観者や視聴者からも好評を頂いたが、それは「曾我兄弟の夜討」の舞台の一部に過ぎず、さらに全体の自動化を図る必要が有る。

また、その他「助六・・・」などの残る舞台の仕掛けも解明していかなければならない。なにぶん仕掛けに関しては素人集団であり、今後それらの解明に関して幅広い参考意見を得たい。

今まで、人形を他県に貸し出すこともあったが、本来は動かない人形を展示するものでなく、舞台の上で動かすものであり、舞台と一体でなければからくり人形にならないということと、貸出による破損もあったので、今後は講談まがいの解説付きでトラックに舞台を積んでメンバーが各地に出張興行をして、全国との交流を深めていくことも考えている。そうした活動からこれからの「桐生からくり人形」を全国に向けて定着させていきたい。